貫井の風

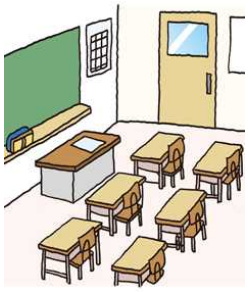
令和５年度１１月号
ＮＯ．７
練馬区立貫井中学校　学校だより

「チャンスをつかまえる」

校　長　桐野　和之

かつて、新劇に杉村春子さんという大女優がいました。私は、ある雑誌で杉村さんの対談を読んだことがあります。彼女は確か次のように語っていました。

「『チャンスに恵まれない』と嘆く俳優がいるでしょう。半分はウソね。そうした人はチャンスが来てから勉強を始めるの。それでは間に合わない。チャンスをつかむということ、それはチャンスが来たときのために、日頃から勉強しておくこと。そうでなければ、せっかくのチャンスも逃げてしまうのよ。」

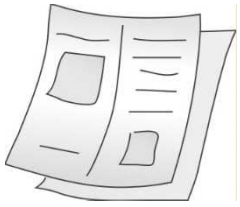


大変考えさせられる言葉です。杉村さんの言葉から「チャンスの神様には後髪がない。行き過ぎてからつかもうとしても、つかむことができない。」という西洋のことわざを思い出しました。杉村さんはその言葉どおりの生活をしていました。

８０歳を過ぎてからも、「欲望という名の電車」という３時間に及ぶ劇をほとんど出突っ張りで演じていたそうですが、そんな高齢にもかかわらず、舞台に立てるのは、日頃の努力によるものなのです。食事は無論のこと健康面のすべてを演劇に結びつけて、日常生活を送っていたということです。

さて、期末テストが終わりました。皆さんの中には、毎日勉強していたのに、思ったよりできが良くないと嘆いている人もいるでしょう。「自分なりにあんなに頑張ったのに。」と思っている人もいるでしょう。

杉村さんは、「内容のいい芝居ばかりに出ていたら、役者は成長しない。」とも言っていました。たしかに、誰だって返されるテストが良ければうれしいし、悪ければがっかりします。でも、「成功ばかりしている人より、何回か失敗した人の方が強い。」とか、「失敗は成功のもとだ。」と自分を励まし、「本当に準備は十分だったのか。」「やり方に無駄はなかったのか。」等、振り返ってみることも大切だと思います。



特に、自己採点した予想点より実際の点が悪いときは、「できたつもり」「わかったつもり」が多いのですから自分をじっくり見直すことが必要なのです。テスト前、学習計画表を作成し、学習時間を確保しようとしたのでしょうが、実際の生活の中では、「まあいいや族」だったのではないでしょうか。

「今日はまあいいや。」とばかり、何もしないのでは本当は力があっても、それを生かすチャンスを逃してしまうことになるのです。

勉強するということは、自分を生かすときのための準備なのかもしれません。そう考えれば、自分でどう準備するかが大切になります。そして、この準備を進める中でこそ、学び方を自分のものにしていけるのです。この学び方と学ぶ意欲こそが学力なのです。心しておいて下さいね。

合唱コンクール（１年生・２年生の部）を終えて

今年度の合唱コンクールが「終了しました」と、残念ながら完全に言い切れない年になりました。

今年はコロナ禍を経て、久々にマスクを外しての合唱コンクールの実施を予定していました。１学期の段階から生徒による実行委員会を中心に準備が着々と進められてきました。ただ、練馬文化センターが改築工事中のため、今年も会場の使用は叶わず、貫井中学校のアリーナでの開催。生徒たちが考えた合唱コンクールのスローガンは「奏響音穏」（そうきょうねおん）。

アリーナに自分達の歌声を響かそうと、１０月１０日（火）から全校一斉の合唱練習が始まりました。１学期の音楽の授業やタブレットに取り込んだ音源をもとに夏休みの課題の取組などさまざまな準備を経て、合唱コンクールで集大成を行うための練習が始まったわけです。

校内はまさに「歌声が響く学校」となり、校舎内のさまざまなところで歌声が響き、大変活気のある学校となりました。ただ、心配していた事は区内の感染症等の状況でした。

合唱コンクールの準備練習期間に入る前の段階で、練馬区内の小中学校ではすでに、インフルエンザ、コロナウイルスによる感染症で延３００クラスを超える学級閉鎖、学年閉鎖という状況があったからです。

練習期間が経過していく中、１０月１７日頃より校内の感染症罹患者が少しずつ増え、特に多かったのが３年生。午後より学年を閉鎖し様子を見る状況が出始めました。そして、いよいよ週明けの合唱コンクール実施週を迎えるも、３年生の感染状況は全く収まらず、合唱コンクールそのものの実施が危うい状況となりました。先生方でコンクール実施直前の２日前に、コンクールそのものをどうするかさまざまな意見を交換し、中止は避けたい。しかし、どのように実施をするのか時間に迫られる中での会議が長時間続きました。

出た結論は、１０月は１、２年生のみの合唱コンクールの実施となり、３年生のコンクールは３月開催という結論でした。それでも開催ができて良かったです。生徒が努力してきた成果を発揮させることができ、楽しみにしていたことが実施できました。３年生には受験等を経て、あらためて「最高学年としての力を発揮してほしい」と思います。今年の合唱コンクールの幕開けとなった１年生のマイバラードの歌声がアリーナに響いたときには、本当に感動しました。合唱って「素晴らしいな」と思いました。

「今、卒業生は」

令和４年度卒業生

私は進路選択あたり、共学で大学付属の高校を希望しました。理由としては、大学付属校は大学受験がないため、将来に向けての勉強をいち早く始めることが可能だからです。私は将来やりたいこと、そのために必要な資格が決まっていました。そこで受験勉強に時間を割く必要のない付属校を選択し、資格取得のために時間を有効活用したいと考えました。

みなさんにぜひお薦めしたいことは、必ず学校見学や説明会に行った方がいいという

ことです。私はパンフレット等の情報で気になった高校の見学に行ったところ、実際にはあまり自分には校風が合わないと感じることがありました。逆にそれほど興味がそそられなかった高校の説明会に参加した結果、とても興味がでた高校もありました。また、説明会に参加すると、ホームページやパンフレットには載っていない情報を得ることができ、意外とそれが重要なものだったりします。二年生の方は時間に余裕のあるいまのうちから、三年生の方は忙しいと思いますが、合間をぬってぜひ説明会には参加して欲しいと思います。

実際に高校に入学して感じたのは、勉強はそれなりに大変だということです。付属校というと楽に大学に進学できるかと思われるかもしれませんが、進級と進学には高校と大学が求める基準が設けられており、それをクリアしないと上に進むことができません。そのため日々の勉強はかかせません。生活面では私は運動部に所属したのですが、活動日数も多く大変です。しかし、活動は生徒主体で進められていて自由で楽しいです。その一方で責任も求められるので、中学とは別の厳しさもあります。

秋には文化祭があり、私は準備委員会に入りました。運営から催し物、文化祭紹介の動画作成まで全て生徒が行いました。準備の進捗が目に見えてわかるので、とてもやりがいがありました。

高校受験は大変だと思いますが、高校生活三年間、ひいてはその後の将来にも影響する人生の岐路の一つです。後悔することがないよう、最高の選択肢を掴み取ってください。応援しています！

令和４年度卒業生

夏休みが終わってから、早くも一ヶ月が経ちました。三年生の皆さんは迫る進路決定に向けて、それぞれが自分のやるべきことに全力で取り組んでいると思います。中には成績が伸び悩んだり、モチベーションを保てなかったりして苦労している人も多いかもしれません。私も昨年は受験勉強に励む中で、多くの壁にぶつかりました。その経験から、あくまで私個人の考えでありますが、先輩としてアドバイスをしたいと思います。

まず成績を伸ばす、または維持する為に必要なのは、勉強の質です。そしてそれを高い水準で保つためには、脳をフル回転させられる健康状態が必要になります。毎晩午前０時までには寝て、７時間以上の睡眠を心がけ、毎日朝食を摂りましょう。

もう一つ必要なのは、勉強量です。そしてそれを毎日高水準に保つためには、モチベーションが不可欠です。現状、スマホやゲーム、イベントといった誘惑に負けてしまうこともあるかもしれません。勉強しない言い訳というのはいくらでも作ることができてしまいます。そんな時に大切なのは、自己評価と向き合うことです。自分の行動を客観的に評価し、自己肯定感を育むのです。つまり「自分が応援したくなるような自分」になることが、自らのモチベーションに直結します。勉強とは自分に向き合う時間です。自分に嘘をつかず、やるべきことを精一杯こなすことで、自然と前向きに勉強に取り組めるようになります。

私は現在高校生として、かつて夢見ていたものに近いような学校生活を送っています。良き友人たちを持ち、部活動に励み、球技大会や文化祭といった行事にも楽しく参加することができています。勉強はやはり大変ですが、中学時代に培った勉強習慣や知識を活かし、なんとか誇りに活かし、なんとか誇りに思える成績を保っています。

これは受験を終えた立場だから言えることですが、勉強は絶対に今するべきです。確かに今の中学校生活には楽しみもたくさんあると思います。だからこそ、最後は全員に笑って卒業してほしいし、その先の人生も幸せなものにしてほしいという思いが、家族や先生方にはあると思います。私からも中学生活や進路が皆さんにとって良いものとなることを心から願っています。

面接で大切なこと

面接というと、４０年以上前の教員作用試験の２次試験の面接を思い出します。もちろん緊張しました。採用試験の倍率はたぶん４０倍以上だったと思います。心の中はドキドキしてなかなか落ち着くことができませんでした。そのような精神状態の中で集団や個人の面接に臨みました。

面接を終えて、大切なのはふだんのからの自らの習慣や取組方がそのまま面接にでてしまうと痛感しました。服装、挨拶の仕方や礼儀作法、考えを表現する方法、その他。面接の前には、世間知らずの自分自身の中には、「根拠のない自信」があったと思います。「たぶん大丈夫だろう」「自分は教員に向いている」など、勝手な思い込みがあり、面接終了後に猛烈に反省した記憶が今でも残っています。

その反省から、面接に臨む際には最低限、自分自身としっかりと向き合い、自問自答しながら自己を客観的に見る時間が必要だと考えるようになりました。他人に批評してもらう前に、先ずは自分自身で自分を観てみる時間が必要だと思います。自己評価することにより、客観的な視野が備わり、自分を広い視野で観ることができる自分がそこに存在してくると思います。

生徒の皆さんが実際の面接に臨むにあたり、服装を整えるのは当たり前。ていねいな言葉づかいも、礼儀作法も、コンパクトに適切に自分の考えを相手に伝える表現方法も当然のように必要となってきます。それらが備わっているのか、自己点検ができて始めて、安心して面接に臨めるような気がします。当たり前ですが、意外にできていない人も多いと思います。逆にできている人は自信、余裕をもって面接に臨んでいます。そのような人もたくさんいます。

皆さんはこれから中学校を卒業後、人生のさまざま節目の場面において面接試験という場を何度か経験、通過することになると思います。自分自身が慌てないためにも、自己評価能力を高めながら、自らを客観的に観る習慣をぜひ身に付けてください。

よく「面接では第一印象を大切に」と言われます。自己評価が適切にできていれば面接での「第一印象」は必ず良くなると思います。ぜひ取り組んでください。

開校６０周年記念式典

１１月１１日（土）に、開校６０周年記念式典が実施されました。

大勢のご来賓の方々が参列された式は、吹奏楽部の記念演奏で始まりました。吹奏楽部は今年約３０年ぶりに東京都のコンクールで金賞を受賞しています。その受賞曲『火の女神』を大勢の方々が見守る中で演奏しました。

また、ご来賓の祝辞、紹介の後には、第６０期生徒会本部役員により、本校の歴史を振り返り現在から未来の貫井中学校に期待する願いを込めた『貫井中学校のあゆみ』が、スライドで発表されました。

式の最後は、校歌を代表生徒の指揮の下、吹奏楽部の演奏で、会場に参列したご来賓の方々、教職員、全校生徒で一緒に歌いました。

この度の周年行事は、記念誌、式典、ロゴマークなどを含め、生徒たちの手によるさまざまな創造性が生かされた内容になったとともに、生徒たちが未来の貫井中学校へメッセージを送る機会になったと思います。